

地域医療薬学の基礎と実践： 望ましい地域医療薬学の推進

オーガナイザー

吉山友二(北里大薬)
竹内尚子(湘南医療大薬)
小平久正(トモズ薬)

新たな薬学教育が創生され、医療系人材のセンスと質を備えた薬剤師が大いに期待されている。急速な高齢化と医療の高度化に対応するためには、外来から入院、在宅とステージが変わっても、科学的根拠に基づいた医療を実践し、必要な医療を切れ目なく提供できる体制を地域全体で整備する必要がある。

地域医療に直接関係する医療人として、その職能を発揮するために必要な知識・技術の基本となる一つに薬学が

ある。

地域医療が必要としている斬新な対応策を始動させなければならないと考え、より地域医療の第一線を意識してシンポジウムをオーガナイズしたところに特徴を見出すことができる。地域医療において活動する時、幅の広いそして決して浅くない知識と能力が必要となる。地域医療を支える薬剤師の役割や機能を考え、薬剤師の資質の向上とわが国の地域医療の発展に寄与したい。

本シンポジウムでは地域医療薬学の基礎と実践を支える薬学研究の取り組みと現状を確認し、その中で今後の方向性について議論を深める。

(吉山友二)

リニア搬送技術を活用した近未来工場の実現

オーガナイザー

岩崎竜之(熊本大院生命科学)
入江徹美(熊本大院生命科学)
菊池正彦(熊本大院生命科学・東京大新世代感染症センター)

医薬品に限らず、食品・化粧品・パーソナルケア用品など、大量生産から多品種少量・フレキシブル生産へと各製造現場での変化が拡大している。限られた作業スペースで柔軟な生産を実現するためには、従来のベルト・チェーン搬送の問題点(余分なライン長・油汚れや発塵・位置ズレ・切替部品点数の多さ・律速工程に全搬送速度を合わせる必要性)を改善する必要がある。

その克服のため、欧州では10年ほど前から革新的なリニア搬送技術が開発され、代替技術として台頭し始め、現在では主流を占めるまでになっている。一方、国内での本技術開発は黎明期に当たり、先駆的企業での導入・実生産が開始された段階にある。

本シンポジウムでは、本技術の製造現場適用を積極的に推進中の包装設備機器供給企業と、いち早く実生産に踏み切った医薬品他の製造企業から講演者やパネリストを招き、本技術を用いた生産ライン設計方針・生産実績・今後の課題に関する情報の共有と意見交換、ならびに関係者の知見を広げる場としたい。(岩崎竜之)

シン・ワクチン学への挑戦

オーガナイザー

吉岡靖雄(阪大微研・先導・院薬・CiDER・CAMaD・MEI)
國澤純(医薬健栄研)

COVID-19も一つの契機となり、mRNAワクチンを含め、様々なワクチン開発研究が世界中で精力的に進められている。一方でこれら研究を通じ、今後のワクチン開発に向けた課題がより一層浮き彫りになってきた。例えば、▽mRNAワクチンの副反応▽mRNAワクチンの免疫持続期間の乏しさ▽高齢者の免疫応答の乏しさ▽マウスとヒトにおける免疫応答の違い▽粘膜ワクチン開発の困難さ——などが挙げられる。これら課題の克服に向けては、

これまで以上に、研究領域の垣根を超えた異分野融合研究が必要不可欠となっている。

一例として、有機化学を駆使した新規mRNAが、mRNAワクチンの有効性・副反応を飛躍的に改善し得る可能性や、高齢者におけるヒト免疫学の理解が新たな高齢者用ワクチンの開発につながる可能性があらう。

そこで本シンポジウムでは、上記を含めたワクチン学における現状の課題を整理すると共に、課題克服に向けた研究戦略を第一線の先生方にご講演いただき、今後の新たなワクチン学研究(シン・ワクチン学)について議論したい。

(吉岡靖雄)

中分子創薬研究のフロンティア

—中分子創薬に資する次世代分子技術

オーガナイザー

鬼塚和光(東北大多元研)
田良鳥典子(徳島大薬院)

低分子医薬品とバイオ医薬品の両方の利点を合わせ持つニューモダリティとして近年、ペプチドや核酸をはじめとする中分子医薬品が注目されている。細胞内の標的を狙え、標的特異性が高く、化学合成可能といった特徴があり、創薬標的の拡張を担う次世代の医薬品として期待されている。

さて、中分子医薬品創製を指向して、ペプチドや核酸、糖鎖、人工キメラ分

子など、幅広い分子種に着目し、様々な研究が進められている。それらの分子を効率的に合成し、高次に機能化するためには、分子種に適した分子技術や解析技術、新しい機能化の概念や分子種間の融合研究が必要である。

そこで本シンポジウムでは、中分子創薬に資する多様な分子技術を持つ5人のシンポジストから、ペプチド、核酸、糖鎖に関する次世代中分子技術の最新研究の一端をご講演いただき、本分野の発展や融合研究創出の一助になることを期待する。

(鬼塚和光)

適切な生物応答の精密化学制御

オーガナイザー

宮地弘幸(東大院薬 創薬機構)
長澤和夫(農工大院工)

生命現象の個別機能の解析および制御、疾病の発症や進展、予防のための医薬品創製を目指した有機化合物の創製に関しては、従来、生体内の基質自体を起点とした構造展開が主に行われて、これまでに多くの成果が得られてきた。しかし、ポストゲノム時代の今日、従来以上に高機能かつ高活性、生体内で適切な効能・効果を発揮するケミカルツール、薬理的ツールの創製

が求められよう。研究の肝となるのは、精密かつ多面的な生体機能情報の集積と整理統合、それらをもとにした大胆な発想とその実践である。

本シンポジウムでは、独自の論理、アイデア、コンセプトをもとに様々な高機能性ケミカルツール、薬理的ツールの、さらには医薬品創製概念の提唱を實踐し、合成と評価を精力的に展開されている先導的な研究者に研究の成果を講演いただき、それぞれ研究者の個性豊かな研究発表が、今後の精密生物応答調節物質創製の指針を考える機会となることを願う。(宮地弘幸)

服薬コンプライアンス向上を目指して 粒が小さい細粒剤

クラシエの漢方

飲みやすさに配慮した スティック包装

賦形剤を少なくし エキスの含有率を高めた製剤

1日2回の漢方KB2

抽出方法を目指した 小さな飲み口

こだわりの品質

暮らしに寄り添う漢方へ。

85.4%の方が「1日2回製剤が良い」と回答¹⁾

生薬の配合量と種類に着目

小さな飲み口⁴⁾ こだわりの品質

暮らしに寄り添う漢方へ。

クラシエ 薬品株式会社 〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

歴史を学び、未来に活かす 薬学史入門

日本薬史学会 編

日本の薬学を中心に、古代から現在に至る薬学の歴史を解説した初めての入門書。

- 〔目次〕
- 序章 薬学を過去から学ぶ
 - 第1章 通史
 - 第2章 薬学教育の歴史
 - 第3章 薬剤師の歴史
 - 第4章 製薬産業の歴史
 - 第5章 薬事制度の歴史

B5判/150頁 定価2,420円(本体2,200円+税10%)

薬事日報社 書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRから オンラインショップ ⇒ <https://yakuji-shop.jp/>

